

# 守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

## 8月7日(月)長濱慎(東京の会)

青いジャージのような上着に短めのズボンで現れた大助さんは、体育の授業の学生さんのようだった。1年3ヶ月前に会った時よりも痩せたように見えるのは、昨年10月から炊事の激務をこなしているためだろう。

しかし疲れ切った様子はなく「自分は元気ですと、支援者の皆さんに伝えてください」と、逆にこちらを気遣ってくれた。以前の紳士靴づくりとは作業場の雰囲気も人間関係も異なり、苦勞も多いようだ。

「それでも自分は無実！絶対に出るという信念があるから耐えられるんです」という言葉からは不屈の闘志が伝わってきた。支援者としても“絶対に出る日”を一日も早く実現させなければならない。「千葉刑務所に収監された2008年は北京オリンピックの年でした。“短期留学”のつもりだったが、すっかり長期化してしまいました」という無念の想いも語られた。それから現在までの間ロンドン、リオデジャネイロと2度もの夏期オリンピックが開催されている。

2020年の「東京」は扉の外で迎えられるよう、支援の輪をひろげなければならない。大助さんは扉の中で、弁護団は法廷で、それぞれ必死に闘っている。支援者としてやるべきは、大助さんの無実をもっと社会に広めることだろう。特に大助さんはマスメディアが動くことを切望している。新聞やテレビへの働きかけにも力を入れなければ・・・とにかく自由を勝ち取るまで共闘しようと、決意を新たにされた面会だった。



第6回関東交流会でのご両親呼び

## えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行う。

## 8月23日(水)ご両親

仙台は32日間連続雨の日が続いて私たちも体調がおかしくなってきました。

千葉は朝から太陽がまぶしくからっとして暑く、久しぶりの太陽がキラキラして清々くさえ感じられる日で朝一番の面会でした。大助も今日の太陽のようにキラキラ輝いて見え、おはようの挨拶から始まり前回は何回に1度の刑務官の立合があったし、上申書の作成などもあって緊張感が感じられましたが今回は仕事にも暑さにも大分慣れたのか体調も気力もしっかりして余裕さえ感じられた。

前回は仕事云々ということもあったが、課題の上申書も書き終えたようで、これで読んで裁判長がやる気を起こすようにはっきり書き留めたと息巻いていました。帰りには千葉での太陽も仙台まで続いてくれればと期待していたが、茨城を過ぎ福島に入るあたりから天候が崩れ、所々雨もあり、帰宅する頃には雨になり連続記録が再新されておりました。

晴れない雨はないので裁判の展望とともに開けることを期待しております。

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2017年9月109号**

●9月の面会4日ご両親、12日阿部弁護士、21日三多摩。10月の面会は 日、日、ご両親

□面会申込み/□国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

## 7月4日(火) 兵庫の会

大助さんに会ってきました。山根さんに声をかけていただき初めて面会する星野さんと3人で千葉に向かいました。

大助さんを知ったのは連日マスコミで報道された「筋弛緩剤事件」で、まだ看護婦現役だった私は「人を助ける身の者が許せない」と心底思った。

暫くして夫が購読している「救援新聞」で「えん罪！」という言葉とまさしく大助さんが犯人に仕立て上げられたという事実を知った。マスコミ報道を鵜呑みにした自分を恥ずかしく思うと同時に、大助さんに「ごめんなさい」と心から謝らなければとずうと思ってきた。今回やっと念願が叶った。お会いした大助さんは想像に反して眼がキラキラとして、精悍な感じさえ受けた。彼は「やってないからです」と。辛いことは「人間関係」だと。厨房では年配の部類に入るそうで若い人とのコミュニケーションが下手だとも言われていた。

ここをでたら「なんらかの形で看護の道に戻りたい」と言われたのが心に沁みた。面会后、救援会県本部の戸賀さんとお話ができ、私の考えも及ばない戸賀さんや山根さんたちの苦労や熱い想いなど、聞くことができ、大助さんに会えたことはとても有意義な日でした。

再審・無罪を勝ち取るために微力ながらも、忘れかけている人、知らない人に話をかけていかなければと思っています

### 南 富美子さん



第6回関東交流・親睦会イン九十九里浜・72名参加



## 8月31日(木) 救:神奈川

大助さんとの初めての面会で緊張しました。質問を4つ考えましたが、うまく話ができるか心配していました。一つは「1週間のスケジュール」は？「今は炊事室で、給食をつくったり食器を洗う仕事をしています。」

休日は週2日で不規則で、勤務時間は5時30分～18時40分頃(残業込)ということを知ってくれました。2つは「今の生活の中での楽しみ」は？。「支援者からのお便りに励まされ、いつも楽しみにしている、また面会も楽しみで、面会された人と話すのが嬉しい」、また、「差入れの本を読むことも楽しみの一つです」

3つ目に「刑務所から出られたらまず何をしたいか？」「両親が元気なうちに家族でゆっくり過ごし、温泉に行きたい？」と話していました。それから全国の支援者へお礼をしたい。」と

4つ目は差入れは？「青いタオル2本、シャワーシート2つ、便箋2つ、週刊誌3冊」を大助さんに頼まれたので面会后差入れをする。無実の罪を着せられて苦しみつつも、明るく笑顔を忘れない大助さんを見て、自分にできることなら何でもやりたいと思いました。

### 渡場大河さん

私としては、久しぶりの面会でした。挨拶の後、9月の休みの日を聞きました。特に月曜日から金曜日の間で9日間の休みを教えてくださいました。9月に阿部弁護士が面会をしたいと言っていたことも伝えました。

10月から仕事が変わり1年になり、ようやく慣れてきたようですが当時は人数が少なくて大変だったようでした。その話をしていたら刑務官も頷いていました。

靴を作っていたときは、規則正しい勤務でだったので、不規則勤務は大変とのことでした。1日も早く再審開始を実現できる事を願わずにはられません。

### 菅原優子さん

「こころが変！」看護師さん

